

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1991400035		
法人名	社会福祉法人 平成福社会		
事業所名	グループホーム ラシーク桂台		
所在地	山梨県 大月市 猿橋町 桂台一丁目99番		
自己評価作成日	平成24年9月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=19
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成24年10月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご家族との関わりを多く持つために、各担当者がご家族面会時にお茶などをお出しし、併せて情報提供を行っている。家族の面会件数も多く、月間で100件以上の面会がある。家庭的な雰囲気を大切に、積極的に調理参加を促し、料理をするという事が定着している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小高い山の中腹に建つ開設して10ヶ月余りの事業所である。事業所のテラスからは、岩殿山や大月市内、また遠くの山々迄見渡せる眺望で、民家とは少し離れている。室内の建材には木が多く使われ、リビングやフロアも広くゆったりとして温さに満ちている。職員は利用者が入居して穏やかで、充実した生活が楽しめるようにと事業所の独自性を情熱を持って模索しつつ、計画に繋げようとしている。家族の面会も多い。職員に支援され利用者は落ち着いた日々を過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

事業所名 グループホーム ラシーク桂台

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1F)	ユニット名(2F)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との関わりや社会参加を考え、食材の買い物や、行商(とうふ屋さん)などに来ていただき、社会参加をしている。	地域との関わりや社会参加を考え、食材の買い物や、行商(とうふ屋さん)などに来ていただき、社会参加をしている。	開設時の研修会と半期ごとの目標作成会議時に理念の共有化を掲げ、毎月、フロアごとに目標の達成状況を確認している。ミーティングに欠席した職員が情報を共有できるよう工夫し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日常的な交流はまだ不足しているが、交流に向けての取り組みや調整を行っている。	日常的な交流はまだ不足しているが、交流に向けての取り組みや調整を行っている。	自治会に入会を検討している。近くの幼稚園との交流を図るよう運動会の練習を見学に行った。また、大月短大のサークル活動との交流を計画している。職員が地域の草刈に参加して交流の機会を多く持つ努力をしている。	開設して間もない上、民家とは離れているため日常的な交流には時間がかかる。新しい発想やアイデアで事業所の独自性をアピールし、地域との繋がりが築かれるよう今後は期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方を対象にした「認知症に対する理解」などの勉強会が開催できればと思っているが、まだ実現に至っていない。	地域の方を対象にした「認知症に対する理解」などの勉強会が開催できればと思っているが、まだ実現に至っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の委員さんを通じて、幼稚園の園長さんを紹介して頂き、今後の交流に向けて話し合いの場を持つことができた。	運営推進会議の委員さんを通じて、幼稚園の園長さんを紹介して頂き、今後の交流に向けて話し合いの場を持つことができた。	民生委員のアドバイスで、幼稚園や大月短大との交流を図っている。会議では、現状報告、半期ごと作成した目標の達成状況を報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に市役所(地域包括)に訪問し、空き状況などを提供している。その際に困りごとなどがあれば、担当者に相談している。	定期的に市役所(地域包括)に訪問し、空き状況などを提供している。その際に困りごとなどがあれば、担当者に相談している。	地域包括支援センターより、新しい利用希望者を紹介された。週に1~2回役所の介護保険課を訪れ、報告や相談をして協力関係は築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は行わず、身体拘束事態も行ってない。スピーチロックにならないよう、毎月行う内部研修会などで周知を図っている。	玄関の施錠は行わず、身体拘束事態も行ってない。スピーチロックにならないよう、毎月行う内部研修会などで周知を図っている。	身体拘束はしていない。またスピーチロックについても職員は理解しており、注意するよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法に基づき、ご利用者に寄り添った介護を目標としている。	虐待防止法に基づき、ご利用者に寄り添った介護を目標としている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年度の中では、権利擁護などの研修会を計画しているが、まだ実施には至っていない。	年度の中では、権利擁護などの研修会を計画しているが、まだ実施には至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、重要事項説明と契約書の説明を2時間ほどかけて説明し、御同意をいただいている。契約時に、コミュニケーションを図る時間を多く設けている。	契約に関しては、重要事項説明と契約書の説明を2時間ほどかけて説明し、御同意をいただいている。契約時に、コミュニケーションを図る時間を多く設けている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1F)	ユニット名(2F)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	半期に一度アンケート調査を実施している。	半期に一度アンケート調査を実施している。	アンケート調査を基にマネジメントレビューを作成し、利用者・家族の相談内容を日報に記している。利用者がフラワーアレンジメントを継続したい、家族からは疾病に対応した食事メニュー変更要望に対応した。面会にきた家族と対話の機会を多くし、よく聞くように心がけられている。職員は、連絡票に聴いた内容は記録している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部門ごとに会議を行い、問題点やサービス実施状況、月間の予定などを報告し、内部書式の「改善提案書」「気づきシート」等を活用し改善につなげている。	部門ごとに会議を行い、問題点やサービス実施状況、月間の予定などを報告し、内部書式の「改善提案書」「気づきシート」等を活用し改善につなげている。	職員は、気づきシートを毎月1人2件提出する目標とし、その内容を現場のリーダーが要望書にまとめている。提案で風呂に手すりをつけたり、ゴーヤカーテンを作った、室温の管理改善をしたり、扉の防音のためのスポンジを張ったりと意見や要望を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の得意分野を生かしながらサービス提供ができるよう、趣味などを取り入れながら業務を行ってもらっている。	職員個々の得意分野を生かしながらサービス提供ができるよう、趣味などを取り入れながら業務を行ってもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「共に成長して行きたい」という想いで仕事をしているが、研修体制(OJT)が確立しているかと言えば、まだ至らないところもある。	「共に成長して行きたい」という想いで仕事をしているが、研修体制(OJT)が確立しているかと言えば、まだ至らないところもある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修などへの参加機会や、法人内での事例発表会などへの参加で内部交流を図っているが、外部交流については改善の余地もあると考えている。	外部研修などへの参加機会や、法人内での事例発表会などへの参加で内部交流を図っているが、外部交流については改善の余地もあると考えている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にGH内を見学して頂き、雰囲気を感じて頂いている。その中で、アセスメントなどを行い、「その方らしい」生活に近づけるように検討している。	事前にGH内を見学して頂き、雰囲気を感じて頂いている。その中で、アセスメントなどを行い、「その方らしい」生活に近づけるように検討している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族同士の関係などにも配慮しながら、対応を行っている。お金を払って利用してはいるが、見てもらっているという意識が働くので、十分に注意しながらサービス実施に努めている。	ご家族同士の関係などにも配慮しながら、対応を行っている。お金を払って利用してはいるが、見てもらっているという意識が働くので、十分に注意しながらサービス実施に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に話をよく聞き、他のサービスで対応可能であれば、他サービスを紹介する準備は出来ている。	事前に話をよく聞き、他のサービスで対応可能であれば、他サービスを紹介する準備は出来ている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	少しづつではあるが、共に生活をする関係作りが出来ていると思う。	少しづつではあるが、共に生活をする関係作りが出来ていると思う。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1F)	ユニット名(2F)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご面会者が多いことを考えると、GH内の雰囲気を感じ取っていただき、ご面会に来やすい環境作りが出来ていると思う。	ご面会者が多いことを考えると、GH内の雰囲気を感じ取っていただき、ご面会に来やすい環境作りが出来ていると思う。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間に制限を設けず、馴染みの方やご家族が気軽に訪ねやすいように考えている。	面会時間に制限を設けず、馴染みの方やご家族が気軽に訪ねやすいように考えている。	希望のある利用者の趣味の教室を地域の人の協力のもと、継続している。なじみの歯科や美容院に行かれている。地域の俳句の会に参加されその俳句を法人のブログに投稿している。毎週地域のお店に買物に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	部屋にこもってしまわないように、スタッフも働きかけを行っている。	部屋にこもってしまわないように、スタッフも働きかけを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時の援助は、必要であれば、行政担当者とも相談しながら行っている。	退去時の援助は、必要であれば、行政担当者とも相談しながら行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	皆さんの歴史を徐々に紐解きながら、ヒントを手練り寄せて対応している。	皆さんの歴史を徐々に紐解きながら、ヒントを手練り寄せて対応している。	利用者の思いや意向を聞いて気づきシートに記録している。職員が研修でロールプレイングで役割りをうまく演じ、表情や動きからしか分からない利用者の態度を理解できるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや、面会時の会話の中で把握に努めている。	アセスメントや、面会時の会話の中で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月、支援経過について担当者を中心に評価を行い、状態の変化に努めている。	毎月、支援経過について担当者を中心に評価を行い、状態の変化に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画には、ご家族やご本人の意向を入れながら作成している。	介護計画には、ご家族やご本人の意向を入れながら作成している。	利用者毎に受け持ち担当制として、毎月個別支援計画の評価をし、計画の見直しをしている。また家族の面会時に、話し合いをして計画を見直し、実施状況、評価など、PDCAサイクルを活用して、チームの支援に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス計画の記録を行い、担当者を中心に毎月評価を行っている。	サービス計画の記録を行い、担当者を中心に毎月評価を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1F)	ユニット名(2F)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に柔軟な対応を意識し、相談されたことに対して、実現に向けて取り組めるよう、スタッフ同士での相談も大切にしている。	常に柔軟な対応を意識し、相談されたことに対して、実現に向けて取り組めるよう、スタッフ同士での相談も大切にしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	漠然とではあるが、まだ不足していると考え	漠然とではあるが、まだ不足していると考え		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医(往診医)を中心に、何か所見があった際には、スムーズに対応できるよう密な連絡を行っている。	主治医(往診医)を中心に、何か所見があった際には、スムーズに対応できるよう密な連絡を行っている。	心療科、精神科の受診を支援している。往診医が週2回来所して利用者の健康管理をしている。歯科医も定期的に往診に来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時や受診時などに様子をお伝えしている。	往診時や受診時などに様子をお伝えしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供を行い適宜実施している。	情報提供を行い適宜実施している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については、その時その場所において変化が見られるものであり、家族間においても考え方が異なるので、慎重な対応に心がけるようにしている。	終末期のあり方については、その時その場所において変化が見られるものであり、家族間においても考え方が異なるので、慎重な対応に心がけるようにしている。	看取りまで対応する方針は、全職員に共有され、家族が希望すれば宿泊は可能。訪問看護の支援を受けて看取りまで対応できる仕組みが築かれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED研修などを実施した。	AED研修などを実施した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制は不足しているが、避難訓練や備蓄は行っている。	地域との協力体制は不足しているが、避難訓練や備蓄は行っている。	毎月避難訓練を実施し、車いす利用者もすばやく避難できるよう抱いたり背負ったりして避難している。夜間の緊急に対して、近所に住む職員2名の対応が可能。AEDが事業所に設置されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々のお声掛けや、羞恥心に配慮した対応を心がけている。	日々のお声掛けや、羞恥心に配慮した対応を心がけている。	ノンアルコール飲料で、飲酒習慣のある人は、飲酒を楽しまれている。銀行印を押す際は、利用者が押している。個人情報事務室で保管し、持ち出す際は鞆に入れて管理している。職員は、利用者は人生の先輩で、人それぞれの性格の違いや一人ひとりに合わせた配慮をしている。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1F)	ユニット名(2F)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事であれば、食べたいものを聞いたり、自由度を設けて、管理されていると感じない様に配慮をしている。	食事であれば、食べたいものを聞いたり、自由度を設けて、管理されていると感じない様に配慮をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者のペースで生活ができるよう、時間の融通をつけながらのサービス提供に努めている。	ご利用者のペースで生活ができるよう、時間の融通をつけながらのサービス提供に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の汚れはこまめに交換できるように、スタッフへの教育を実施している。	衣服の汚れはこまめに交換できるように、スタッフへの教育を実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事への参加は、かなり充実したものになってきている。強制にならない様に、十分な配慮(声掛け)が出来ていると感じている。	食事への参加は、かなり充実したものになってきている。強制にならない様に、十分な配慮(声掛け)が出来ていると感じている。	毎日、材料切り、調理、味見、盛り付け、洗い物など、それぞれが得意な役割りを自主的に行っている。利用者が自家製の麺打ちしたうどんや餃子などをクリスマス会、誕生会等の行事に作って楽しく食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材業者の献立を中心に、色々な物が提供できている。	食材業者の献立を中心に、色々な物が提供できている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後に実施し、毎週歯科医の訪問もあり、適宜の対応ができてる。	口腔ケアは毎食後に実施し、毎週歯科医の訪問もあり、適宜の対応ができてる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	安易にオムツを使用しないよう、スタッフで工夫しながら対応をしている。	安易にオムツを使用しないよう、スタッフで工夫しながら対応をしている。	排泄チェック表を活用し、オムツをしないトイレ排泄を基本としている。近々、排泄の自立支援に関する研修会を計画している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動量が不足している方もいると感じているので、今後の課題として、訪問している看護師さんに相談中である。	運動量が不足している方もいると感じているので、今後の課題として、訪問している看護師さんに相談中である。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	理念としては持っているが、週2回の入浴が現状。何とか打開できれば・・・。	理念としては持っているが、週2回の入浴が現状。何とか打開できれば・・・。	週2回の入浴を原則とし、バラ風呂も予定している。入浴の理想は、夜間にとの思いはあるが、体制上難しい。入浴拒否のある利用者には、対応できている職員の声掛けの方法を共有するようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1F)	ユニット名(2F)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣に応じて対応しているが、すべてに於いてとなると…。まだ改善の余地はあると感じている。	生活習慣に応じて対応しているが、すべてに於いてとなると…。まだ改善の余地はあると感じている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服マニュアルを作成し、タイムリーに差し替えを行っている。内服ミスをなくすために、2人での確認を必ず行っている。	内服マニュアルを作成し、タイムリーに差し替えを行っている。内服ミスをなくすために、2人での確認を必ず行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴に応じた対応ができるように、ヒントを探しながら工夫している。	生活歴に応じた対応ができるように、ヒントを探しながら工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スタッフだけでは対応が難しい場面も多くあった。しかしながらあきらめることなく、何とか思いを実現させてあげたいと思っている。	スタッフだけでは対応が難しい場面も多くあった。しかしながらあきらめることなく、何とか思いを実現させてあげたいと思っている。	買物日は週2回、地域のパン屋・豆腐屋も行商に来ている。毎月1回は家族が面会に来て散歩など外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族に説明を行い、預り金の管理を実施している。お金を使うという行為を大切に考えている。	ご家族に説明を行い、預り金の管理を実施している。お金を使うという行為を大切に考えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所において、ご本人の希望に応じた対応をしている。メールなので海外へ写真を送ったこともあった。	事務所において、ご本人の希望に応じた対応をしている。メールなので海外へ写真を送ったこともあった。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	GH内の雰囲気や調度品を大切に、施設っぽくない様に、調度品などにも配慮をしている。	GH内の雰囲気や調度品を大切に、施設っぽくない様に、調度品などにも配慮をしている。	リビング・食堂・厨房が一体で配置され、リビングには、広いソファがあり、建物内全体がゆったりとした、くつろげる場となっている。窓からは、周辺の山々が見渡せて一枚の絵画が用意されているようである。屋外には、広いテラスもあり、こもくつろげる場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	スペースは広くはないが、リビングで対応している。	スペースは広くはないが、リビングで対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇やコタツを持ち込まれている方もおり、GHとしても持ち込み品の制限は設けていない。	仏壇やコタツを持ち込まれている方もおり、GHとしても持ち込み品の制限は設けていない。	利用者それぞれが必要な物、馴染みの品々を持参してその人らしい部屋作りがされている。炬燵に入って、1人読書に耽っていられる環境が用意され明るく落ち着いた居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活に向けて日々模索をしている。	自立した生活に向けて日々模索をしている。		